

インタビュー

公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部 長野地域会

J I A長野県クラブ

新井 優代表



新井優(あらい・まさる)氏 62歳。  
飯田市。新井建築工房+設計同人NEXT(飯田市)代表。

## コンパクトな運営で 「共(友)に学ぶ」 建築家団体めざす

この春、コロナ禍の中で書面により行われた通常総会で、荒井洋前代表からたすきをつなぎ新会長に就いた。クラブの基本部分をしっかりと継承しながら、効率的でコンパクトな運営を目指す。キーワードは「共(友)に学ぶ」だ。

昨年10月に発生した東日本台風の傷が癒えないまま、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、人々が集まることもためらう自粛社会になってしまった。そんな状況でも、信州を良く知る建築家として、建築家の集まりとしてできることを精いっぱい行い、社会を良い方向にむけていかななくてはならない。

そのためには、今まで通り会員間の連携を密にして交流を活発にする必要があるが、ウィズコロナの時代に合った効率的でコンパクトな会の運営を進める。具体的には、会議は委員会活動を含め基本ウェブで行い、活動日を月1回に集約する。会としては以前からリモートを取り入れてきたが、コロナ禍によって移動時間が無くなり小回りが利くようになった。全国の支部にも言えることだが、登録建築家証の更新に必要なCPD継続職能学習に対して都心に向かなくとも済むし、地方に居ながら知識を高めることができるのは新たなメリット。いよいよ地方の時代が来た、と思う。

### 信州の地域材 委員会を新設

こういふ時代だからこそ、住宅の質や良さを示す大事な時期だ。これまで住宅は性能を重視しすぎるあまり「閉じた家」になりがちだった。コロナ禍によって、

外に開く、生活も開く住まいづくりが見直されている。信州の多様な住まい方を提案するために、まちづくり活動への積極的な参加・協力に取り組む。

今年度から、五つある委員会のうち「まちづくり委員会」の中の事業だった地域材利用促進を加速させるため、六つ目の「信州の地域材委員会」を新設した。信州の地域材利用促進を通して、CO<sub>2</sub>の削減や地場産業の活性化に貢献するのが目的。具体的には、年2000棟60000㎡の県産材利用を掲げた。最近では県も公共施設でプロポーザルでの設計者選定をおこなっており、住宅だけではなく非住宅、中・大規模の建築物へも、積極的に木造化と地域材導入を提案できるようにしていきたい。そのためには、地域ごとに建築家が山側と連携し、建築家同士が知識を高め、「共(友)に学ぶ」組織にすることが大事。さらにJIAの活動を、友達に会いに行くような気楽な建築家サロンの雰囲気にした。(談)